

# ニッキイの大疑問

## 年金、何歳からもらおう？

### 70歳超も選択肢 働く動機に

厚生年金などをもらい始める年齢について、70歳を過ぎても選べるようにする構想が政府内にあると聞いたけど、どんな中身なの。本来なら65歳からもらえるはずだけど、今後どうなるのかな。



年金をもらい始める年齢などの仕組みについて、荒川美紀さん(46)と白根敦子さん(46)が大林尚編集委員に話を聞いた。



70歳超も選べるようになるのかな？

日本年金機構が支給始める年齢は、65歳に向けて引き上げの途上です。今の仕組みだと、受給者もいつか始める時期について、60歳までの繰り上げや70歳以上の繰り下げを通算して1か月あたり0.5%～0.7%の減額や増額され、繰り下げの場合は1か月に0.7%（最大42%）増額されます。現状、大半の人は基準年齢でもじり始めているんですよ。



基準年齢の65歳が引き上げられる可能性は、今のところありません。2月の閣議決定は基準年齢引き上げの布石とはいえないでしょう。2004年の年金制度改革で一部の政治家が「百年安心プラン」の名の下にもう大規模な改革は必要ないと有権者に訴えた手前もあり、政権として1段の引き上げを言い出さなければいけません。年金財政の持続性を高めるには基準年齢の引き上げは避けて通れないと思いますが、少し歴史をさかのぼってみたいですよ。日本で国民皆年金が確立したのは1961年で



女性も手直しした改革をするのか？

個人が年金をもらう年齢をできるだけ先に延ばす動機はあります。こうして働いていけば年金の必要性はそれほど高くないです。たぶん70歳とか、80歳に元々なると仮定して働けば、年金をもらう年齢をそれに合わせて上げられます。「人生の賭け」のような面もありますが、金額が乗せられたら、働いていこうという人が増えるんじゃないかな。でも、これによって年金制度全体の財政状況が好転するの考えるのは早計です。年金財政に浮揚中立的な要素として計算して上乗せ額を決める公算が大きいかな。



高齢者が働ける場の確保も重要です。

その通りです。日本にはなお終身雇用制を残している会社が少なくありません。同じ会社やグループ企業で65歳まで働いたとしても、それ以降の働き場をみつければ、たやすくはありません。支給開始年齢の引き上げを考える際は労働市場の流動化を促し、雇用と年金の間の空白期をどう短くするかという課題に答えを出す必要があります。働いていてある程度の収入がある高齢者には、年金支給が停止されるか減らされる制度があります。高齢者の就業を阻害する側面があるので、この見直しも政府内で議論されることになるでしょう。

受給繰り上げなら減額、繰り下げて増額になる

支給開始の基準年齢

引き上げ後の年齢 | 完了年

日本	65歳	男性2025年度 女性2030年度
米国	67歳	2027年
英国	68歳	2046年
ドイツ	67歳	2029年

(注)厚生省資料(17年10月)から抜粋

荒川 美紀さん テニスと乗馬に取り組んでいる。冬場はテニス中心だったが、春からは時間をやり繰りして乗馬にも力を入れる考え。「最終的には障害競技の大会に参加することを目標としています」

白根 敦子さん この5年ほど約りにはまっている。今年6月にも東京・八丈島に出掛ける予定という。一昨年には16年分のカンパチを2匹釣り上げた。「今年はそれをを超える釣果を目指しています」



### ちょっとインテリク 超党派合意が改革のカギ

支給開始年齢の引き上げは与野党間の政争の具になりがちだ。時の政権がその必要性をわかっていても、いざ実行しようとするれば野党から総攻撃を受け、守勢に回らざるを得なくなる。有権者の多くも野党側につき。かつて小泉純一郎首相が引き上げを口にしたときは藤元の与党に反対論が渦巻き、引込めざるを得なくなった。選挙に負ければ元も子もないからだ。それを克服する手立てのひとつが党派を超え合意を見いだす努力だ。スウェーデンの年金改革は各党の党首級が膝詰めで策を練った。だからこそ政権交代しても改革が覆されることはなかった。(編集委員 大林尚)

■ニッキイとは 日経を日ごろからよく読んでいる女性の愛称です。日本経済新聞社は毎週、経済通、世の中通を目指す読者を本社に招いています。詳しくはhttp://www.nikkei4946.com/nikkeiy/をご覧ください。